会　　議　　録

1　会議名	平成２５年度第７回宇都宮市上河内自治会議
2　開催日時	平成２６年２月１８日（火）　午後２時００分～午後４時１５分
3　開催場所	宇都宮市上河内地域自治センター　大会議室
4　出席者	【委員】 太田正，神山光男，東原勸，川津昭夫，髙橋榮一，藤枝登茂子，笹沼志津子，長谷川良子，江連脩身，手塚豊，鈴木敏正，中山善一，小嶋康夫，長嶋秀子，君島恭子，髙橋みどり，福嶋修 【事務局】 地域まちづくり担当参事，地域自治制度担当副参事，上河内地域自治センター所長，地域経営課長，地域づくり課長，保健福祉課長，産業土木課長，地域経営課職員
5　公開・非公開	公開
6　傍聴者数	【傍聴者】なし 【記　者】なし
7　会議経過	１　開会 ２　会長あいさつ ３　議事 （１）「地域のまちづくりに関する施策の提案」について ４　その他 ５　閉会

1　開　　会	
第７回宇都宮市上河内自治会議開会	
３人の委員から欠席の連絡を受けており，出席者数は１７名で，委員の過半数に達しているので，この会議は成立することを事務局報告。	
2　あいさつ	
太田会長あいさつ	
3　議　　事　（１）「地域のまちづくりに関する施策の提案」について	
会　長	グループ協議の進め方等について，事務局に説明を求める。

事務局	グループ協議の進め方を説明する前に，前回，前々回と検証評価をしていただいた方策１・方策３について，各グループで発表していただいた内容に，意見交換で出された意見を含めて，事務局で「意見の総括」として６項目にまとめたので説明させていただく。「方策１及び３に係る検証・評価結果」をご覧いただきたい。「グループ別意見概要」については，記載のとおりである。「意見の総括」として，１つ目は，農産物の生産，加工，販売について地域の現状を把握するとともに企業や農家の意向等を確認する必要があるとの意見から「地域の現状把握」とした。 ２つ目は，ゆず，いちご等，農家の方が知恵を絞り作付されているが，アンケート調査により，地域の特産品が何であるのか，加工品も含めてそれを明確にすることが必要であるとの意見から「特産品の明確化」とした。 ３ つ目は，ゆず，いちご，トマト，アスパラガスなど良質な物を生産するため，専門家や先進的な生産者から指導を受けて品質の向上，均一化を図る必要があるとの意見から「特産品の生産性，品質の向上」とした。 ４ つ目は，加工品の品質向上，均一化の為に加工業者との連携が必要である他，販売店の確保等販路を開拓する必要があるとの意見から「特産品の加工・販売」とした。 ５ つ目は，生産者も一体となった検討組織を設立して地域全体で取り組む必要があるとの意見から「地域全体での取組み」とした。 最後に，早急に法人化の説明会を開催して方策や資金面等について生産者，農協，商工会等関係者が情報の共有を図っていく必要があるとの意見から「行政の支援」とした。 また，「想定される実施団体」については，農協（いちご部会），農業者団体，商工会の他，新規に団体を設立し，新しい発想で取り組んでいくべきとのご意見もあった。 以上で説明を終了する。
会　長	ただいまの説明について，質問等はないか。
全委員	質問等なし。
事務局	グループ協議について説明する。 本日は，方策２・４両方について検証評価していただく。 時間は３０分を予定している。 その後，グループ毎に６～７分で発表をしていただく。 それでは，グループ協議をお願いする。
グループ協議を実施。	

会　長	グループ毎に発表していただく。 今回は，Ｃグループから発表をお願いする。
委　員	Ｃグループの協議結果を発表させていただく。 方策２の「進捗状況」はＤの「遅れ気味」，「効果」は３の「あまり効果は得られてない」とした。 理由は，観光農園は，梵天の湯の北側に少々ある以外，殆どないのが現状だからである。 今後の課題としては，生産者に協力・検討していただくことが必要。 今里町のゆず園の生産者の活動が少々見られる様子。 上河内の特産品は米ではないかという意見も出た。 『小倉米』が有名である。 今後の取組方針の「対処」は，Ａの「継続」とした。 今里町周辺にいちごのハウスが４～５軒あるようなので，「いちご街道」などとネーミングするなどし，発展させると良いのではないか。 農協の各部会とも打合せが必要である。 想定される実施団体はＪＡの婦人部等，農業関係者が考えられる。 次に，方策４の「進捗状況」はＣの「ほぼ順調に推移」，「効果」は２の「それなりの効果が得られている」とした。 観光マップが既に作成されている。 今後の課題としては，ろまんちっく村と喜連川の間である当地には「道の駅」の設置は認められないとのことなので，「まちの駅」のような形の施設を，梵天の湯を軸に作れば良いのでないか。 今後の取組方針はＡの「継続」とした。 特産物は，ゆずやいちごだけでなく米もそうではないか。 梵天の湯を利用して，トイレや特産品の販売の場所を拡充し，また，情報発信の場も設けて「まちの駅」という形にすると良いのではないか。 想定される実施団体は，温泉振興会など関係する団体とした。 以上が協議結果である。
委　員	Ａグループの協議結果を発表させていただく。 方策２の「進捗状況」はＤの「遅れ気味」，「効果」は３の「あまり効果が得られていない」とした。 ゆずについては，今里地区にゆずのオーナー制度による活動がある。 ５年目になると思うが，まだまだ一部の人だけの取組みで，上河内地域全体では，この活動を知らない人も多いと思う。 いちごは，個人の経営で精一杯で，観光の方まで手が回らない。 （収穫が終わる）５月の末頃，子供たちなどを中に入れて無料でいちご狩りを行っている。

	一番の課題は，先頭にたってまとめる人がいないという事である。 今後の取組方針は，Ａの「継続」とした。 見直し，改善点の内容は，園芸作物と言われるナス，きゅうり等の栽培に温泉熱を利用したら良いのではないか。 せっかく出ている温泉をうまく利用できないか。将来的には温泉をもう１本掘削して，長期的にやっていく。また，現在も行っている今里のゆずのオーナー制度をもっと拡大してＰＲすれば発展すると思う。 先ほどＣグループの提案で，米についての提案があったが，自分たちは，５年位前に米のオーナー制度を作り，「もちのさと」と名付けて取り組んだが，人手不足などでやめてしまった。米についてもやればできることと思う。 次に，方策４の「進捗状況」はＤの「遅れ気味」，「効果」は３の「あまり効果が得られていない」とした。 だいだらぼうの会が「歩こうマップ」を作成したが，ＰＲが足りず，活用されていない。また，道路整備がなされていない。羽黒山の道路整備が必要だと思う。 今後の取組方針は，Ａの「継続」とした。見直し・改善点としては，前の項目と重複するが，羽黒山の登山道，あるいは周辺道路の整備が必要である。 宇都宮ブリッツェンの協力でサイクルロードレースを開催という話があったが，道路の整備不足のため立ち消えになったと聞いている。 そして，歩こうマップ等のＰＲをより拡大したい。 以上が協議結果である。
太田会長	Ｃグループからも出たが，ゆずのオーナー制度が５年も続いているのは，それなりに成果があってのことと思うが，どんな成果があったのか。
委　員	私が聞くところでは，大きな利益を得たというのではなく，年に１回のレクリエーションが楽しみであるという程度のようである。 ただ，３年間の国の補助が終了しても続いているというのは，これから希望が見えるのかなと感じる。
委　員	リーダーは始まった時から変わらない。 １０人位でやられているのだろうか。 ゆずの他にじゃがいも，さつまいも，大根等を栽培し，ゆずの収穫時期に一緒に収穫するという形で，今も熱心に取り組んでいる。 ただ，これが地域に広まっているのかはわからない。 私も手伝った事はないが，お客は随分来ているようである。
太田会長	知る人ぞ知る，という感じの取組みのようである。 お知らせいただき感謝する。

委　員	１万円支払うと，ゆずの木のオーナーになれるそうである。
委　員	Ｂグループの協議結果を発表させていただく。 方策２の「進捗状況」はＥの「未着手」,「効果」は４の「ほとんど効果が見られない」とした。 理由は，観光農園の整備に未着手で，効果が出ていないからである。 今後の取組方針は，Ｂの「取り組みの見直し」とした。 観光農園等を運営する組織を新たに創設しなければならない。 手法としては，耕作放棄地を借り上げて有効利用し，観光農園化するという案が出た。 観光農園は，ゆずやいちごにとらわれず，落花生やさつまいも等，人を呼べて季節にあったものでいいのではないか。 想定される実施団体は，ゼロからのスタートということで，新規に団体を設立するのが望ましいのではないか。 次に，方策４の評価として「進捗状況」はＤの「遅れ気味」,「効果」は３の「あまり効果は得られてない」とした。 理由としては，ＰＲが足りない，各施設（ゆず園，羽黒山，キャンプ場，梵天の湯）同士の連携が少ないといったところである。 今後の取組方針は，Ｂの「取り組みの見直し」とした。 見直し・改善点は，関係各団体の連携を密にする。 その手法は，Ａグループも触れていたが，宇都宮ブリッツェンと共同の自転車関係のイベントの他，収穫祭も良いのではないか。 梵天の湯に案内所の機能を持つ場所を作り，そこで観光施設のＰＲをするのも１つの手だと思う。 ＰＲの充実については，インターネットの活用等，色々手法はあると思う。 想定される実施団体としては，サイクルロードレース関係の団体の他，キャンプ場関係では，市のスポーツ振興課，観光交流課等が主体となって，それらとタイアップして地域のまちづくり協議会と共同イベントを開催すると良いと思う。 以上が協議結果である。
会　長	大変熱心に協議していただき感謝申し上げる。 今後につながる貴重なご意見をいただいた。 全体を通して気が付いたことを２．３お話しさせていただきたい。 方策２については，評価の理由に多少の違いは見られたが，進捗，効果とも同じ評価が出されたように思う。 そのうえで，今後進めていくための重要なヒントを含めて可能性をご指摘いただいたと思う。

	その際に全体を通じて，どうあるべきかを含めてお話しする。 まず，最初の C グループの，「単にいちごの観光農園を開設するというのでなく，周辺をいちご街道などとネーミングする」という，１つの物語，ストーリー性を持たせイメージ化を図る提案があった。 それと通じる部分で，Ａグループは温泉熱を利用した園芸作物の開発という意見を出された。これは，ブランド化にも通じるが，上河内ならではの特長，色づけであり，別な言葉を当てると「差別化」と呼ばれるものである。例えば出荷額など，数字で競い合う道もあるが，その一方で，ここにしかないものという特長づけをする事により，ある面では他と違う価値があるものとして売り出す事が可能になる。そういう点で，魅力的なイメージ化を図る，或いは他にはない特長づけを進めていくというのが今後の課題として指摘されたのではないかと思う。 B グループは，特に組織的な対応を取り上げていた。耕作放棄地などを借り上げて有効活用して観光農園化するというのは，大変有用な方向性だと思う。そうした事を推進できる，あるいは運営できる組織がまず必要であるとの全体としての方向性が提示されたと思う。その中で，特定の産品に関わらず，季節に応じた多彩な農産品を組み合わせながら魅力を高めていく，そして観光農園を魅力あるものとしていくという提案であった。 方策４については，「遅れ気味」という事で，全体として，進捗度合について課題を残す評価とされた。 この中で特に，Ａグループでマップがなかなか活用されていない，これはなぜなのか，ＰＲ不足ではないかというご指摘があった。 Ｂグループからは各施設同士の連携が少ないとの指摘があった。資源はあるのだが，それらのつながりがはっきりしないという事だと思う。宇都宮は，「餃子の街」，「ジャズの街」，「カクテルの街」など，単品では色々特長づけされているが，それらをまとめて，宇都宮はどういう街なのかという場面になると，単品ごとの評価，発信だけでは，宇都宮市全体としてのトータルなイメージアップにつながりにくいと言われている。 そんな事もあって，宇都宮市に 4～5 年前に，「ブランド戦略室」が開設された。今では「住めば愉快だ宇都宮」と，メッセージ性を含んで宇都宮全体を表現する取り組みをしている。 従って，宇都宮は，ある面から見ればいいものをたくさん持っているが，単品商法になっていて，ある面では寄せ集めで，全体としてはよくわからない，あるいは印象が強く示されない，という事になる。 従って，それぞれの資源を１つ１つではなく，どうやって全体として

	のイメージ，物語として提供できるのか，という事になる。 　マップを作るにしても，こういう場所があります，と単にポイントを示すだけではなく，コース設定をして，そのコースを回るとどういうことが体験できるか。というようにイメージやストーリーが示されないと，なかなかこういう所があるよ，というのをマップで示すだけでは発信力として力不足ではないかと感じる。 　特にＣグループの方からは梵天の湯を軸にして今後の展開をはかっていこうというご提案がされた。「非常にたくさんいいものがありますよ」というのではなく、特に上河内としては，ここを中心にして売っていく，中核となる資源を軸として展開していく，というような事がなされれば，ある面ではイメージが作りやすい，全体を表現しやすくなっていくのではないかと思う。 　あわせてそういう事と連動して，Ａ・Ｂグループから，共同イベントということで，いずれも宇都宮ブリッツェンを念頭においていたと思うが，観光とスポーツというのは非常に連動性があるという事が最近注目されている。「スポーツツーリズム」という言葉があり，観光庁の中に，全国組織として「日本スポーツツーリズム推進機構」という組織がある。 　これは２０２０年に東京オリンピック，パラリンピックや国体などが開催され，全国あるいは全世界からお客さんが来る。そういう人たちをどうやって地域の中に誘い込めるか，という事を各地域で考え始めている。その中で，知事も市長も練習拠点等を提供することなどにより，色々な観光資源を体感してもらう，見てもらう，ということと連動させ集客を図ろうとしている。そうした中，上河内でも観光資源とイベント，特にスポーツイベントと連動させて発信力を強めていくことは非常に有効なご提案だと思う。 　全体として進捗状況は捗々しくないが，潜在力，可能性は大きい。知恵を絞ってやっていけば，そうした潜在性，可能性を引き出して，そして成果に結び付けていくことが可能ではないか，ということがご検討いただいた結果として示されたのではないかと思う。 　全体としては取り組みの「継続」「見直し」であって，「やめる」「中止」という意見は１つもなかったので，ぜひ地域の可能性を高めて工夫しながら，そうした成果を生み出していけるような今後の展望を確認できたのではないかと思う。 　コメントとしては以上である。
事務局	ただいまの総評について，質問はないか。
全委員	質問等なし。
事務局	それでは，次に「行政が主に関わるもの」とされていた３つの方策に

	ついて，事務局で作成した評価，検証結果について報告させていただく。 はじめに，方策５「スマートＩＣ周辺を中心とした産業の開発・誘致」については，進捗状況はＥの「未着手」。効果は４の「ほとんど効果は見られない」とした。 評価の理由・課題は「第２次宇都宮市都市計画マスタープラン」における北東部地域整備の主要方針の１つに，スマートＩＣを活かした地域の活性化の方針が示されているが，具体的な計画は策定されていないためである。 今後の取組み方針として，「対処」はＢの「取組みの見直し」として，「スマートＩＣを活用した地域の活性化」に改める。 手法手順は，第２次宇都宮市都市計画マスタープランにあるように，スマートＩＣによる広域交通の利便性を活かし，自然，景観，歴史文化，農産物等の多様な地域資源の有機的な連携を図るとともに，産業や観光等の機能導入による地域の活性化を図るための取組みを行っていく。 次に，方策６「道路整備の推進」についての進捗状況はＣの「ほぼ順調に推移」，効果は２の「それなりに効果が得られている」とした。 評価の理由・課題は，歩道整備予定距離の約半分は完成し，児童・生徒の通学等，歩行者や自転車の交通の安全がある程度確保されている。未整備部分は，平成２５年度中の用地買収，平成２６年度中の歩道整備完了が見込まれることや，農道の舗装は毎年度計画的に進められていることによる。 今後の取組み方針の「対処」は，今後も計画的な整備が予定されていることからＡの「取組みの継続」とした。 次に，方策７「公共交通の充実」についての進捗状況はＢの「順調に推移」効果は２の「それなりの効果が得られている」とした。 評価の理由・課題としては，平成２５年１０月１日より地域内公共交通の見直しをした。まず，ユッピー号の利便性向上として，デマンドタクシー導入に伴う運行時間帯や路線の見直しや済生会病院線の新設を行った。また，地域に合った公共交通の導入として，昼間時間帯は，路線バスに代わりデマンドタクシーの試験運行を開始（愛称：かみかわち愛のりユッピー号）した。 今後の取組み方針の「対処」は，Ｂの「取組みの見直し」とし，「地域内公共交通の利用促進」に改める。 手法・手順については，「運行受託者と利用促進について協議を行い，利用促進策の実施」や「愛のりユッピー号と済生会病院線との乗継割引の実施」を行っていく。また，かみかわち愛のりユッピー号ニュース等により未登録世帯への更なる周知を行うほか，全戸アンケート調

	査を行っていく。 　高齢者外出支援事業として，平成２６年４月１日から，かみかわち愛のりユッピー号の回数券の利用が可能となる。 実施団体は，宇都宮市と上河内地域内交通運営協議会である。 以上で説明を終了する。
太田会長	方策５・６・７について，事務局から報告をしていただいたが，実際に関わるのは地域の皆様方であり，より良く改善していくという事については，行政側だけで済む話ではないので，皆様の念頭においていただければと思う。 私の方で気づいた点について少し触れる。 まず，スマートＩＣの今後の取組方針が「見直し」になっている。 具体的には表現されていないが，第２次宇都宮市都市計画マスタープランにもとづく，上河内地域の都市計画上の位置づけもさることながら，より総合的な基本計画として「宇都宮市総合計画」がある。そちらの方でも地域の将来的なあり方に触れているので，上河内地域の占める位置が確認できると思う。スマートＩＣの関係では，広域交通の利便性を活かすという事で，地域内だけではなく，地域外，あるいは県外も視野にいれて活用が見込まれると思う。そういう点では，地域資源を活かした産業や観光の機能を導入することで，上河内地域全体の活性化に繋がるという趣旨が含まれている。それについては先ほどグループ協議していただいた内容がここに結びついていると思う。 観光というのは語源からすると光を観るというふうになるが，そうした光り輝くものを見に，人は遠方から訪れるわけであり，従って何を光らせるのかというのが大変重要である。 外から見て何となく光輝いているというだけでなく，住んでいる地域や皆様自身が光り輝くことが何よりも重要で、そうであればこそ外から見ると光り輝いて見えることになる。地域が活性化し外から見ても光輝いて見えることが，最終的に観光に結びつくものだと思う。 そういう趣旨で，先ほどのグループ協議との関係を含めて，何を他にはない上河内ならではの地域資源として光らせていくのか，単に観光資源があるよというだけではなく，それを磨き上げて更に発信力を強めて地域の内と外それぞれに向かってメッセージを伝えていけるか。 そういう主体的な取組みがなければ，観光資源というモノがあるだけでは光となる効果を発する事はできない。全体としての取組みが求められていると思う。 従って，ハード整備ということだけでは行政の役割が大きいが，実際にどう活用していくのか，どういう風に外に向かって光輝くようにして

	発信できるのかという所は，まさに地域それ自体の取組み以外にないので，ご理解いただければと思う。 　地域内交通については，具体的な取り組みとしては一番進んでいる。その中でより一層の改善を進めることによって，見直しを図ると良い。そこは今申し上げたことを念頭にして協議していただければと思う。 　皆様方の意見交換の時間を設けるので，ご意見等をお願いしたい。
委　員	今までグループ討議をやって来たが，２６年度以降もこのやり方は続くのか。
事務局	そうである。
委　員	色々な意見が出たが，なるべく早く，いつ，どういう組織がやるのかということについて着手しないと，会議のための会議になってしまう。 　あれもこれもやりましょうとなって，いつになったら目鼻がつくのか，不安になってしまう。 　いつどこで誰がやるのか，早く討議しあっていければ良いのだが。
太田会長	その通りである。 　会議のための会議になっては意味がないので，ご指摘の通り，具体化を図るというのを最優先で進めていきたい。 　自治会議だけでは完結できないので，まちづくり協議会と両輪で具体化を図っていきたいと思うが，まちづくり協議会長として副会長からご意見をいただきたい。
神山副会長	確かに，誰がいつやるのかというのがまだ決まっていないが，現在，まちづくり協議会の部会毎に，自治会議で提案した４つのテーマの実行プランが実行可能か検討してもらっている。 　Ａ・Ｂ・Ｃに分け，Ａは可能，Ｂは一部可能，Ｃは不可能として，評価して議論していただいている。 　各部会に関係した項目を見てもらっており，それぞれの結果を３月いっぱいには報告いただけるようお願いしている。それを元に，全体で，どの部会が何をやるかというのをこれから検討していきたい。 　ただ，まちづくり協議会の中だけでは難しいので，自治会議と一緒に検討していきたいと思う。 　４月頃には，まちづくり協議会としてのある程度の方向性は出ると思う。
委　員	我々Ｂグループでは，新規団体の立ち上げを常に言っている。 　いちごの観光農園をやろうという時に，農協のいちご部会でできるのかという事まで討議した結果，観光農園となるとそれだけの施設を作らねばならないし，現在の施設に一般の人が入るのは細菌を持ち込むことになると思うので，ほとんど不可能に近いのではないか。

	また，観光農園にすると相当なリスクがあるそうである。 普通に出荷すれば年間で何千万円を稼ぐと思うが，それを観光農園とした場合，本当に利益が上がるのかと考えると，やはり新しい団体を作ってその中でなんとかやっていく，ということを考えている。 実際にいつ誰がどこでどのような形でやるのかという事だが，立ち上げるためには人が要る。 頭脳の方は皆さんの頭を集めれば何とかなるが，人，モノ，金この３つが必要になってくる。人には賃金が発生する。モノを建てるには非常に大きなお金が要る。本当にできるのかという点が一番心配である。こういった視点が全然なくて画に描いた餅になってしまうが，ここを真剣に討議して本当にできるのか，夢物語で終わらせるのではなく，形にできる方策はないか，これから考えていかなくてはならないと我々Ｂ班は思う。これからの課題である。先ほど神山副会長からまちづくり協議会で討議しているとの話があった。私もまちづくり協議会で色々やっているが，だいだらぼうの会では，地図を作ったり羽黒山のハイキングコースを整備したりしているが，地図を作るにはお金がかかるしハイキングコースを整備するにも人手がかかる。それをどこから出すのか，という事で真剣に考えている。 まちづくり協議会で意見が出ればそれを参考にして，本当にできるのか，という事を真剣に考えるべきではないかと思う。
神山副会長	Ｃグループで「いちご街道」作ったら良いのではないか，という提案があった。自分もいちご生産者に，「いちご街道」のように，観光としての販売やいちご狩り等をやってみたらどうか，という話をしてみたが，生産者としては，それでは採算が合わない，個人的に観光客を相手にするのは不可能だとの話であった。これは非常に難しい問題だと思う。
太田会長	具体化を図る上で，どうしてもそれを乗り越えていかなければいけないものがあり難しい。だが問題は，ならばやめるのかということである。課題があるのは事実だが，どうすれば乗り越えられるのか踏み込んだ検討をしていく必要がある。 夢物語で終わらせては意味がないので，先ほどのご発言にあったが，可能性をそれぞれ見極めた上で，それが高いところは順次課題を明確にしながら，乗り越えていく取組みを進めていく。ある意味で言えば，メニューはたくさんあっても，並べただけでは意味がないので，何から食べていけるのかということを精査してスケジュールに落としていく，という取組みを具体的にする必要があると思う。 今まで繰り返しグループ協議を重ねてきた結果，その事がだんだん分かってきたのではないかと思う。

	具体的に実現するための課題をどうとらえていくのか。 現実的な，どうするべきかという問題に直面してきたのだと思う。 ある面で言えば，初めから無理だと後ろ向きにとらえるのではなくて，色々と検討してきた成果の１つとして前向きにとらえた上で，そこからどうやって１歩でも２歩でも前に踏み出せるのかということを現実課題として捉え直した上で進めていただく時期に来たと思う。 今まで検討を重ねてきた成果として，ぜひ受け止めていただきたいし，そう簡単に，頭の中でひらめいたものが翌日すぐ実現できる訳ではないので，色々な取組みの繰り返しの中から具体化を図る以外ないと思う。
委　員	諦めずに前に進まなければ地域は輝かないと思う。 観光とスポーツという点で，以前，梵天マラソンというのをこの地域でやっていて，ちょうど今頃の時期で，大勢の方が協力して雪の中でイベントをやっていたことを思い出した。 また，自分達が住んでいく上で，かみかわち愛のりユッピー号が今後２台，３台と必要になってくる時代がやってくるし，自ら利用する時代が来るのは確かだと思う。 どの地域においても，そういう費用を考えて自分たちが作っていかなくてはならないと思った。
委　員	初めからそう思ってはいたが，会議をしていてもこれを果たして実行できるのかなと疑問に思った。 ２２年度の提案で３年後までに実施とされているのに全然進行していない取組みがある。 何年たてば形としてあらわれるのか。 ゆずやイチゴについての取組みにしても，これらはどこでもできるので，上河内でなければ，という訳ではないと思う。 農業に携わっている人達だけではなく，色々な人を仲間に入れて法人化をし，イチゴやゆずにこだわらずフルーツトマト，お米，アスパラガス等色々なものを扱う，上河内としての１つの農産加工所を民間で作ったら，農協は関係ないとは言えないが，どうなのかなと思っていた。 この自治会議がどのくらい役に立ち，どんなことが実現されるのかが楽しみであり不安でもあり，毎回参加させてもらって，いつになったら実行できるのか，この話がどこまで地域の人達に通じているのか，伝達できているのかと思うと不安だった。 あと２年位の間には現実のものとなり，上河内として大きな第３セクターのように６次産業化ができたらとても良いと思う。
会　長	ありがとうございました。 非常に率直なご意見を頂戴した。

	私達が常日頃から肝に銘じておかなくてはならないことだと思う。 先程，副会長からまちづくり協議会の取組みをご紹介いただいたが，まちづくり協議会の方々も，必ずしも上河内の地域全体から参加している訳ではない。 自治会議の限られたメンバーでご検討いただいた成果が力を持つためには，それが地域全体で共有されなければならない。 そうでないと，誰かが何かやったようだが，という程度の認識にとどまり，みんなの提案となり地域全体の力として進んでいくことは難しいという事になりかねない。 ここで色々議論していただいた事をどうやって地域全体に隅々まで伝えることができるかが，具体化を図る上での大前提になる。 一方，ある日突然，地域の皆さんが何千人も何万人も一緒に集まって何か議論して結論を出すという事はあり得ないので，まずは１つ１つの小さな取組みから，という出発しかないと思う。 そこで，そういう１つ１つの小さな取組みや議論をどうやって地域全体に押し広げて，そうして共に具体化を図っていく気運，あるいはそうした取組みの雰囲気を作っていけるのかが重要になってくる。 そのためにはどうすればよいか。宇都宮市では、「住めば愉快だ宇都宮」のロゴの入ったバッジを作り，それをつけることで，皆が共通認識を持てるような取組みをしている訳だが，ある面ではそうしたわかりやすさ，同時にどうやって地域の人達でメッセージを共有していくのか，そして自分の口を通じて地域外の人に今こういう事をやっていると伝えていけるのかといったことについては，工夫しないといけないと思う。 わかりやすいメッセージとしてどう伝えるのかと考えると，あれもこれもというのはなかなか難しい。 同時にある面で言えば，先ほど申し上げた地域には有用な資源がたくさんある。それを１つ１つ説明して，だから・・，と言ってもなかなか伝わらないので，それらを統合して１つの形にする。１つのメッセージや物語にして伝えていく。あるいはそうした事が全体として共有されていく，というような事を考えなければいけない。 別の言い方をすると，「ブランド戦略」という言い方もなされるが，非常にわかりやすい，誰もが共通して１つのものをイメージできる，そうしたものが何なのかという事になっていく。 上河内という地域の特性がどこにあるのか，産業経済分野では何を中心的な売りにしていくのか，というような事を見せ方として考えていく必要がある。その辺の所が，今後具体化し周知を図っていく中での課題の１つだと理解している。

	それぞれ各グループでご討議いただいた結果については，改めて，こういう事だったらやれる，という所は内容を高めていきたいと思う。 他に意見等はないか。
全委員	意見等なし。
４　その他	
会　長	次に，次第４の「その他」について，意見を求める。 なければ，本日の議事は終了させていただく。
事務局	今年度はこの第７回目の会議で終了である。 来年度４月に第１回目の自治会議を開催の予定である。 開催日時を決定次第，連絡させていただく。 今年度最後なので，上河内地域自治センター所長から一言あいさつを申し上げる。
所　長	１年間の謝辞と次年度の自治会議の運営への協力依頼を含めてのあいさつ
５　閉　会	
会　長	以上で，平成２５年度第７回宇都宮市上河内自治会議を終了する。